流涙を初発症状とした篩骨洞骨腫例

韓 相善・北村 溥之・宮田 耕志
金子 賢一・安里 亮・平野 滋

Ethmoid Osteoma Causing Epiphora ; A Case Report

Sanson Han, Hiroyuki Kitamura, Kouji Miyata,
Keni-chi Kaneko, Ryo Asato and Shigeru Hirano
(Tenri Hospital)

There have not been many reports of ethmoid osteomas in the Japanese literature. The most commonly described symptoms are facial pain and headache. We recently treated a patient with ethmoid osteoma causing epiphora by compression of the lacrimal sac.

She was 60 years old and complained of left epiphora. We diagnosed ethmoid osteoma on the basis of X-ray and CT scan findings. The epiphora was completely relieved by removal of the osteoma compressing the lacrimal sac.

Key words: osteoma, ethmoid sinus, epiphora

はじめに

鼻副鼻腔領域に発生する良性腫瘍の中で、骨腫は決して稀な疾患ではないが、本邦での報告例は多くない。今回我々は流涙を初発症状として発症した篩骨洞骨腫の1例を経験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。

症 例

患者：60歳，女性。

主訴：左流涙。

既往歴：20歳時隆鼻術。

家族歴：特記すべきことなし。

現病歴：平成4年4月頃より左流涙を自覚し、また左内眼角部に圧痛のない硬い腫瘤を触知したため、同年9月14日当院眼科を受診した。CT上、左篩骨洞から涙骨にかけての腫瘤が認められたため、9月28日当耳鼻咽喉科へ紹介さ

れた。

初診時所見(図1)：左内眼角部に径8mmの骨性硬、境界明瞭、可動性なく圧痛のない腫瘤を触知した。鼻内所見として軽度の肥厚性鼻炎を認めるのみで、複視や眼底の異常所見などは認めなかった。

単純鼻X線、断層写真(図2)：左篩骨洞を中心に拇指頭大の境界明瞭な円形陰影を認めた。

CT写真(図3)：左篩骨洞から涙骨にかけてbone density massを認めた。

^{99m}Tc-MDPシンチ(図4)：腫瘤に一致して^{99m}Tc-MDPが高濃度に集積していた。

入院後経過：以上より左篩骨洞骨腫と診断し、入院の上、平成4年12月10日全身麻酔下に左鼻外篩骨洞手術を施行した。腫瘤は涙囊の後壁か

図 1 初診時所見
左内眼角部に径 8 mm の腫瘤を認める。

図 2 左：単純鼻 X 線像
右：上顎断層 X 線像
左篩骨洞に骨腫様陰影(矢印)を認める。

図 3 冠状断 CT 像
左篩骨洞に bone density mass (矢印)を認める。

ら涙嚢内に突出していた。上顎骨前頭突起を鉗除し、篩骨洞を開放後、腫瘤を全摘出することができた(図 5)。

摘出標本(図 6)：径 $28 \times 22 \times 13$ mm, 骨性硬,

図 4 Tc シンチ像
腫瘤に一致して ^{99m}Tc -MDP が高濃度に集積している。

図 5 術中所見
涙嚢を切断し、腫瘤(矢印)を明視下においたところ。

不整形で重量は7gであった。

病理組織像(図7)：豊富な骨梁からなる成熟骨組織で形成されており、硬性骨腫との診断であった。

術後10日目で退院し、30日目に術時、鼻涙管から鼻腔へ挿入したシリコンチューブを抜去し、現在流涙も止み経過良好である。

考 察

鼻副鼻腔領域に発生する良性腫瘍の中で、骨腫は最も多いとされ、その頻度は Childrey¹⁾によると無作為に選んだ3510例の副鼻腔X写真で15例(0.43%)の骨腫を発見し、本邦では大谷ら²⁾や大戸ら³⁾が各々2500例中4例(0.16%)に認められたと報告している。

発生部位として欧米では前頭洞、篩骨洞、上

顎洞、蝶形骨洞の順に多いのに対し、本邦では篩骨洞が最も多いとされている。その相違として、北村ら⁴⁾は日本人の前頭洞の発育が悪いと述べ、また神尾⁵⁾は単純鼻X線のみでは前頭洞原発か篩骨洞原発か区別しにくい場合があり得ると指摘している。

好発年齢は10代から30代に多いとされ、性別では、Hallberg ら⁶⁾やSamy ら⁷⁾は男性が女性の2倍近く発生していると報告しているのに対し、北村ら⁴⁾は男女差はなかったとしている。

症状はほとんどない場合が多く、腫瘍が増大、進展するにつれて種々の症状を呈するようになる^{8)~12)}。眼窩方向へ進展した場合、眼球突出、視力障害が出現するが、本症例の場合、涙嚢を圧迫したためと考えられる流涙が生じている。鼻副鼻腔方向へ進展した場合、副鼻腔炎や、洞自然孔の閉塞による mucocoele や pyocoele が生じ、頭痛や前頭部頬部腫脹が生じてくる。更に頭蓋内に進展すると髄液漏、髄膜炎、脳膿瘍などを併発し、片麻痺やてんかん様発作などをきたした報告¹³⁾も認められる。

骨腫の発生原因としては、

- 1) 前頭洞骨結合部の軟骨遺残からの発生説
- 2) 胎生期胚芽迷入説
- 3) 炎症説、外傷説

などが挙げられている。本例も過去に隆鼻術を施行されており、それが何らかの影響を及ぼした可能性も考えられる。

病理組織学的には

- 1) 硬性骨腫：硬く密な骨組織よりなり Havers 氏管と少量の結合組織を含む。
- 2) 海綿状骨腫：層状構造をもち密な骨組織を欠き海綿状組織よりなる。
- 3) 混合性骨腫：上2者が混在する。

に分類される。

診断としては、X線写真が最も簡便で有用であるが腫瘍の進展程度を判定するにはCTが役立つ。

治療法は外科的切除が第1であり、その方法として lateral rhinotomy, Killian 氏法, 萩野氏

図6 摘出標本

図7 病理組織像

豊富な骨梁からなる成熟骨組織で形成されている (HE×400)。

法などがあるが、最近では美容上、あるいは頭蓋内進展のため前頭開頭術を用いることもある¹⁴⁾。しかし腫瘍が再発や悪性化する事もないので、小さい場合は症状が発現しない限りX線像で経過観察を続け、症状が発現したり、腫瘍の増大が認められた場合にのみ摘出術を施行すれば良いと考える。また最近ではTcシンチにより骨腫の増殖性を判定できるという報告¹⁵⁾も認められる。

ま と め

今回我々は、涙嚢の圧迫による流涙を初発症状とした篩骨洞骨腫の1例を経験し、外科的切除により良好な結果を得た例を報告した。

稿を終えるに当たり、御校閲を賜りました京都大学耳鼻咽喉科学教室本庄 巖教授に深謝いたします。

本論文の要旨は第247回日耳鼻大阪地方連合会(平成5年12月、大阪市)において口演した。

参考文献

- Childrey JH : Osteoma of the sinuses, the frontal and the sphenoid bone. Arch Otolaryng 30 : 63, 1939.
- 大谷 巖, 佐藤三郎, 服部政夫, 他 : 前頭洞骨腫の3症例. 耳喉 39 : 837~843, 1967.
- 大戸武久, 内田 豊, 堀内博人, 他 : 視力障害をきたした巨大なる篩骨洞骨腫症例について. 耳展 22 : 577~582, 1979.
- 北村達也, 皆藤彦義, 本多芳男 : 巨大なる鼻副鼻腔骨腫の1症例. 耳展 30 : 377~381, 1987.
- 神尾友彦 : 前額洞に発生し, 眼窩, 篩骨蜂窩, 蝴蝶洞を埋めたる骨腫に就て. 大日耳鼻 45 : 197, 1939.
- Hallberg OE and Begley JW : Origin and treatment of osteoma of the paranasal sinuses. Arch Otolaryng 51 : 750~760, 1950.
- Samy LL and Mostafa H : Osteoma of the nose and paranasal sinuses with a report of twenty one cases. J Laryngol Otol 85 : 449~469, 1971.
- 堤内邦彦, 小川 明, 吉積 隆, 他 : 篩骨洞骨腫の1例. 耳喉 53 : 463~466, 1981.
- 前田秀彦, 石塚洋一, 名越好古, 他 : 副鼻腔骨腫の3症例. 耳展 28 : 179~184, 1985.
- 辻 純, 西山正司, 木村 正, 他 : 前篩骨神経由来の頭痛を来した前頭洞骨腫. 耳鼻臨床 80 : 1071~1074, 1987.
- 宇山啓子, 館野秀樹 : 慢性副鼻腔炎を伴った篩骨洞骨腫の1症例. 耳喉頭頸 62 : 827~830, 1990.
- 滝元 徹, 伊藤 真, 嘉藤秀章 : 頭痛の原因となった小さな篩骨洞骨腫. 耳鼻臨床 85 : 1599~1602, 1992.
- 清水雄三, 樋口治之, 中島一夫, 他 : 3回の髄膜炎症状を発症した篩骨洞部骨腫の1例. 日内会誌 76 : 1141, 1987.
- 辻 富彦, 金子省三, 真崎正美, 他 : Craniofacial approach にて摘出した巨大篩骨洞骨腫の1例. 耳展 35 : 387~392, 1992.
- Noyer AM, Chapuik JS and Kirsh JC : Radionuclide bone scan in frontal sinus osteoma. Aust NZ J Surg 59 : 127~132, 1989.

(原稿受付: 平成6年1月4日
原稿採扱: 平成6年2月14日
別刷請求先: 韓 相善
〒632 天理市三島町200
天理よろづ相談所病院耳鼻咽喉科)